



DAIWA だより

2014年 第5号, 発行: 2014年 5月 株式会社 ダイワ

「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」。目にも鮮やかな「青葉」の瑞々(みずみず)しい、「山ほととぎす」の鳴き声が耳に心地よい、心浮き立つ季節が到来しました。江戸中期の山口素堂(1642~1716)という俳人が、江戸の人々が最も好んだものを、五感を働かせて見事に俳句に詠(よ)みました。これら春~初夏の自然を代表する動植物が安心して生息していた環境が、300年を経て大きく失われてきたことを、しみじみと思うものです。

今回の第5号は、最近改正された環境法令情報と弊社品質保証体制について、ご紹介します。

◎ 最近の環境法令の改正

(1) 水道法に基づく水質基準と測定方法の改正

「亜硝酸態窒素」に係る「水質基準に関する省令等の一部を改正する省令」

(平成26年厚生労働省令第15号)

前号でも「亜硝酸態窒素」について触れましたが、平成26年2月28日に公布された<厚生労働省令第15号>:「水質基準に関する省令等の一部を改正する省令」によれば、同省令の表について、9の項から50の項までを1項ずつ繰り下げ、新たに9の項として亜硝酸態窒素に係る基準値(0.04mg/L以下)が追加され、全項目数が51項目に増えました。施行日は平成26年4月1日です。

「水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法等の一部を改正する件」

(平成26年厚生労働省告示第147号)

「亜硝酸態窒素」に係る基準値が追加されたことに関連して、平成26年3月31日に<厚生労働省告示第147号>が公布され、その分析方法として「イオンクロマトグラフ(陰イオン)による一斉分析法(別表13)」が設定されました。別表第13の「3 試料の採取及び保存」の項において、試料に残留塩素が含まれている場合は、試料1Lにつきエチレンジアミン溶液(50mg/ml)1mlを加えることとする。ただし、亜硝酸態窒素の検査を行わない場合は、エチレンジアミン溶液の添加を省略することができるとの内容が新たに加えられ、また、別表第13の表1にある亜硝酸態窒素の濃度範囲は、0.004~0.4mg/Lと記載されました。

(2) 土壌の汚染に係る環境基準についての一部を改正する件

「1,1-ジクロロエチレンに係る土壌環境基準の変更」 (環境省告示第44号)

改正の概要:

- ①改正の概要平成26年3月20日に<環境省告示第44号>が公布され、「土壌の汚染に係る環境基準について」(平成3年8月環境庁告示第46号)の別表「1,1-ジクロロエチレン」の項の環境上の条件について、「検液1Lにつき0.02mg以下」から「0.1mg/L以下」に改正され、同日付で施行。
- ②水質環境基準及び地下水環境基準等におけるリットルの表記の例に従い、別表中「ℓ」の表記を「L」の表記に改める。

改正の経緯:

「土壌の汚染に係る環境基準について」(平成3年8月環境庁告示第46号)の別表「1,1-ジクロロエチレン」の項の環境上の条件について、「検液1Lにつき0.02mg以下であること」とされていた。一方、平成21年11月に別表「1,1-ジクロロエチレン」等の項目について、水質汚濁に係る環境基準及び地下水の水質汚濁に係る環境基準の基準値が変更(「1,1-ジクロロエチレン」は0.02mg/Lから0.1mg/L以下に変更)された。更に「土壌の汚染に係る環境基準の見直しについて」の答申案を踏まえ、今回の告示改正となりました。(土壌汚染対策法に基づく特定有害物質の見直しその他法の運用に関し必要な事項について(第一次報告)(案)に対する意見の募集(締切:5月9日)後に、土壌汚染対策法施行規則の改正等が行われる予定。)

「株式会社ダイワ」の品質保証体制について

ISO9001 (品質マネジメントシステムの国際規格)

弊社は2000年に、JQAより主な環境調査業務についてISO9001を認証取得しました(JQA-QM5206)。それは、水質・大気質・固体質及び騒音・振動の計量証明事業、作業環境測定業務、飲料水水質検査業務、アスベスト調査など、分析測定事業を営む会社として、「品質」(ISOでは「顧客の多面的な要求事項を組織が達成できる能力(特性が備わっている程度)という意味」)を「コスト」「納期」「安全」「環境」と同様に、会社の重要な要素として基礎づけたかったからです。そして、次のような品質方針を掲げて顧客満足度を引き上げるよう、品質マネジメントシステムの改善に努めています。

(株)ダイワは、環境計量測定並びに影響評価に基づく環境保全・環境創造の提言を目指す業者として、「**精度が高く速やかな分析測定と的確でわかり易い報告**」を通じて顧客に満足と信頼感を与え、当社の永続的な発展と社会的な貢献を達成することを目標とする。

絶え間ない顧客満足の向上を目指すために、品質方針を次のように設定する。

1. 顧客の要求の変化に合わせて、商品開発、品質・コスト・納期の継続的改善に努める。
2. 品質目標を設定し、その目標達成に努める。
3. 品質保証のしくみを継続的に改善する。
4. 法令・規制要求事項を順守し、公正な事業に努める。

とりわけ分析測定業者として事業を展開するにあたり、当社は社会的責任を深く認識してその責任を全うし、公正且つ適正な事業の実施と、計量ニーズに対応した高水準の品質の実現を図り、信頼性の維持・向上に努める。そのために関連法規・規制要求事項並びに確立したマネジメントシステムを忠実に順守し、顧客満足度を上げる最大限の努力を払う。

この方針を実現させるために具体的な年度目標を定め、それらを全社員に周知徹底させ、実行する。

株式会社 ダイワ
代表取締役 山本哲也

弊社の成果品として最も大切な価値は、「**精度が高く速やかな分析測定と的確でわかり易い報告**」です。これを提供する上で、品質方針として掲げている重要なことは、法令順守して公正且つ適正な事業の実施、つまりデータの改竄(かいざん)をしないこと、そして高水準の品質を実現して顧客に提供することだと要約できます。お客様の要求をこのようにとらえ、年度目標に「内部・外部精度管理の実施」を掲げて、品質システムを日々改善・管理しています。

ISO9001に基づく弊社品質保証の基本的な考え方

ISO9001は顧客の不満が書かれていると言われます。より正確に言いますと、顧客の不満の裏返しである顧客要求事項が、国際規格に規定されています。弊社は顧客の不満や不適合事項に対し、その原因を特定し、喜んで受け取っていただけるよう是正処置した成果品・サービスを、提供します。こうして要求されていることを(あるいは要求されている以上のサービスを)Giveし(与え)、顧客満足度を引き上げ、その後でTakeする(取る)ことで弊社の永続的な発展の達成を目指しています。

この考え方は、近江商人の「三方よし」という理念(近江の地から離れて商売する近江商人は、自分だけではなく相手を良くし、世間にも利益をもたらす「売り手よし」、「買い手よし」、そして「世間よし」の考え)に似ており、彼らはこれを実践して繁栄を築いてきました。経営の神様と言われる松下幸之助の経営道・商人道の原点、源流は、この近江の商人道にあると言われています。

弊社も、ISOを組織に適用し、「三方よし」の理念を生きようとしています。毎年実施しているアンケート調査を通じ、皆様から「納期の短縮」「価格の値下げ」「速やかな環境法令情報の入手」「提案型の業務対応」等の要望を頂いています。当「DAIWAだより」の発行は、弊社への期待に対する積極的是正対応の一つです。皆様の声を謙虚に拝聴しながら、進んでまいります。

ISO9001 から ISO/IEC17025 試験所品質システムへ

弊社の品質保証システムは、環境中の微量物質分析が求められる時代にあつて、ISO9001 から次第に ISO/IEC17025 試験所品質システムに移行しつつあります。ISO9001 は、受注に基づいて製品・サービスの設計を行い、製造・提供する製品・サービス事業について書かれており、試験業務に要求される技術管理事項がほとんど規定されていません（左下図）。一方、ISO/IEC17025 は品質マネジメントシステムだけでなく、試験・校正という技術的活動の信頼性確保を目的にした技術的管理事項を記述しており、各要求事項を配置すると右下図のような構造となります。

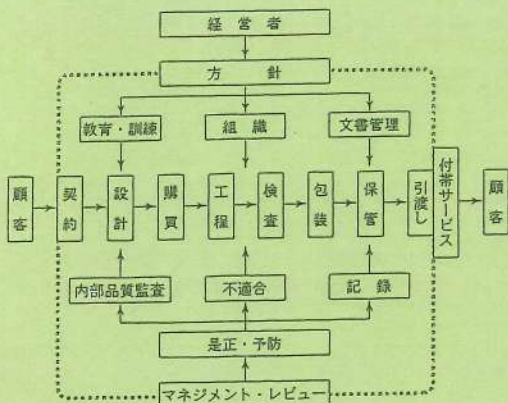


図 ISO 9001 の規格構造

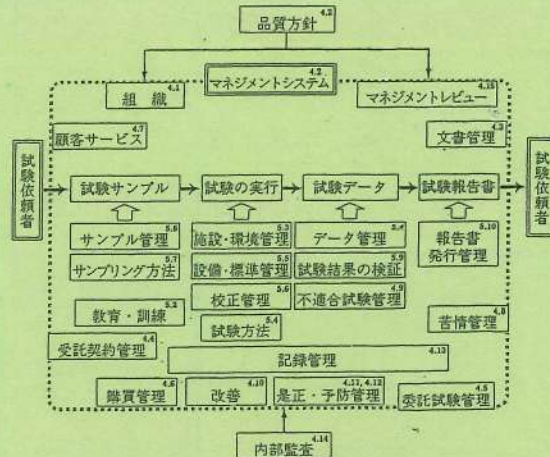


図 ISO/IEC 17025 の規格構造

水道水質検査品質システム

水道水検査事業については、ISO9001 の規格をベースに、厚生労働省の要求する技術管理事項を組み合わせた水道水質検査品質保証システムで管理しています。弊社は 2004 年に厚生労働省により当該検査システムが受け入れられ、水道水質検査登録機関（登録番号：第 181 号）となりました。厚生労働省の要求する技術管理事項である外部精度管理（技能）試験、各種の内部精度管理試験等の品質監視の実施を通じて、システム及び分析工程が適正かつ有効に維持管理されています。

MLAP 制度（特定計量証明事業者認定制度）品質システム

環境中のダイオキシン類の定量試験には、水道水検査より更に極微量分析測定技術が要求されるため、高い技術力と指揮監督された試験実行が可能で組織的試験所が必要です。この分析測定結果を計量証明書として証明するのに、偏りや不正確さが無いことを権威ある機関が審査し、証明遂行能力のあることを公式に承認する（これを認定という）制度が、ISO/IEC17025 に準拠した MLAP 制度です。弊社は、2003 年に NITE（独立行政法人・製品評価技術基盤機構）からダイオキシン類計量証明事業者として認定されて以来、適切なシステム運営する試験所として認定され続けています。

ISO/IEC17025 に基づく試験所品質システムを構築中

弊社の分析測定業務品質保証システムは、既に記したように ISO9001 だけで管理することに無理があり、そのため品質方針に毎年の年度目標として「精度管理実施による工程管理の徹底」等を掲げ、実質的に ISO/IEC17025 に近づけて運営しています。更にこの方向性を進めて、水道水検査事業を対象に ISO/IEC17025 に基づく試験所品質システムを構築中です。“町の分析屋から、世界に発信する分析会社”を目指して進んでまいりたく、皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

(株) ダイワの品質マネジメントシステム一覧表

現在の品質システム	対象組織・対象事業	認証・登録・認定番号	将来の希望システム
ISO9001 品質マネジメントシステム	本社・千葉支店 計量証明事業等	JQA-QM5206	ISO/IEC17025
水道水質検査品質保証システム	本社・千葉支店 水道水検査事業	第 181 号	ISO/IEC17025
MLAP 制度・品質システム	ダイオキシン類分析事業	N-0093-01	MLAP

<ちょっと一休み>

今回は、地球温暖化の問題を考えてみましょう。

地球の津々浦々で、環境が根本的に変わりつつあることを示す、否定できない証拠がいくつも積み重なってきています。アラスカの氷河や南米のアンデス、ヨーロッパアルプスでも、大変な勢いで山岳氷河が溶けて後退する等、地球温暖化問題が確かな事実であるというだけでなく、どんどん危険が迫り、今や地球全体の緊急事態となりつつあります。

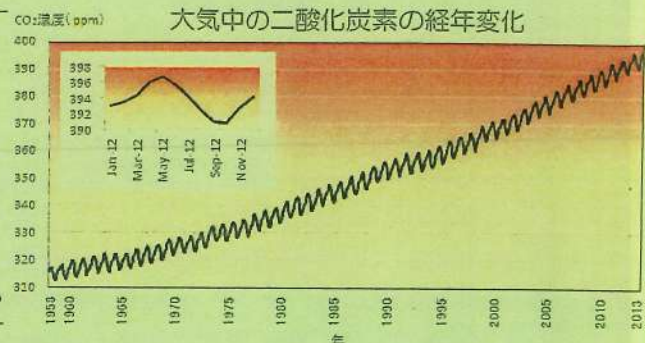
2007年、「人為的に起こる地球温暖化の認知を高めた」として「ゴア元副大統領」と共に、国連の「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」が、ノーベル賞委員会からノーベル平和賞を授与されたことはご承知の通りです。現在の日本は「STAP細胞」が話題の中心となっていますが、今回は二酸化炭素やメタンガス、フロンガスといった人間活動に起因した温室効果ガスによって、私たちの地球に深刻な事態が進行している温暖化問題について、少し考えてみましょう。

Q1) ゴア氏の「不都合な真実」という本には、地球上には、危険を真っ先に感じて知らせる“炭坑のカナリヤ”(危険が迫っていることを知らせてくれる前兆の意味)の役割を果たす場所が2か所あると言います。温暖化の影響を特に敏感に感じる地域は、次のうちどこでしょうか。

() 1.エベレスト山頂、() 2.北極、() 3.ハワイ島・マウナケア山、() 4.南極、() 5.マッターホルン山頂

Q2) ゴア氏は大学時代に、地球温暖化問題に取り組むきっかけとなる質問を、ハワイ島のマウナロア観測所で計測された二酸化炭素の濃度曲線(キーリング曲線)を見て、担任の教授に次のような質問をしたとされています。……「二酸化炭素濃度の線が、毎年ぐっと上がってはがくんと下がるのは何故ですか？」

どのような理由から、このような曲線となるのでしょうか？



IPCCによる第5次評価報告書(2013年9月27日に公表)には、温暖化の原因・現状等につき次のような結論が記されています。

- 地球温暖化の原因： 人間活動が20世紀半ば以降に観測された温暖化の支配的な要因であった可能性が極めて高い(可能性95%以上)。
- 観測事実： 温暖化については「疑う余地がない」。
- 将来予測： 今世紀末までの世界平均地上気温の変化予測は0.3~4.8℃である可能性が高い。今世紀末までの世界平均海面水位の上昇予測は0.26~0.82mである可能性が高い。

温暖化が進行する事実を受け止め、暮らし方を変える具体的な第一歩を踏み出しましょう。

株式会社 ダイワ <DAIWA>

本社 ●住所：〒254-0082 神奈川県平塚市東豊田 369
TEL：0463 (53) 2222(代) FAX：0463 (53) 2233

千葉支店 ●住所：〒283-0062 千葉県東金市家徳 238-3
TEL：0475 (58) 5221(代) FAX：0475 (58) 5415

小田原支店 ●住所：〒256-0811 神奈川県小田原市田島 734-14
TEL：0465 (42) 2354(代) FAX：0465 (42) 1652

URL <http://www.daiwa-eco.com> e-mail info@daiwa-eco.com

Q1: 2, 4 (気温が地球全体で2~3℃上がる時、赤道では0.5~1℃しか上がらないのに、北極・南極の両地域では7℃も上昇し、地球上のどの場所よりも急速に気温が上昇して氷が溶け、気候パターンや海流の流れも根本的に変化する可能性があると言われていました。)

Q2の答え： 地球の大陸(従って植物)の大部分が赤道の北側にある。春と夏の間、北半球が太陽の方向に傾いている時、葉が茂る。葉は二酸化炭素を吸収するので、世界中で二酸化炭素の量は減少する。秋と冬になり、北半球が太陽から遠ざかる方向に傾くと、葉が落ちる。落葉は二酸化炭素を吐き出すため、大気中の二酸化炭素の量は増えて元に戻る。地球全体が年一回、深呼吸しているようです。